

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2003-304477

(43)Date of publication of application : 24.10.2003

(51)Int.Cl.

H04N 5/76
G11B 7/004
G11B 20/10
G11B 27/10

(21)Application number : 2002-106466

(71)Applicant : SHARP CORP

(22)Date of filing : 09.04.2002

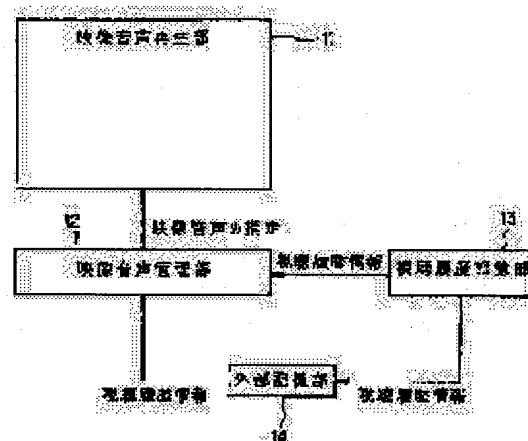
(72)Inventor : KOMODA HIDEKAZU
KAWAGUCHI SHOKO
NAKAIZUMI MITSUHIRO

(54) VIDEO AND VOICE REPRODUCER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To automatically reproduce a continuation of a program or contents by other apparatus when the program is currently reproduced by one apparatus.

SOLUTION: The video and voice reproducer comprises a view history memory means for storing the view history information of the contents. The view history memory means is an external memory means (e.g. external memory 14 such as memory cards, etc.), removably attached to the reproducer (e.g. a PDA, hard disc recorder, DVD recorder, DVD player or CD player). It reads view history information stored in the view history memory means and automatically reproduces a continuation of contents. Whether it automatically reproduces the continuation of the contents immediately or after checking it can be made optional in this case.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 25.02.2005

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision]

of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-304477

(P2003-304477A)

(43) 公開日 平成15年10月24日 (2003. 10. 24)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
H 0 4 N 5/76		H 0 4 N 5/76	Z 5 C 0 5 2
G 1 1 B 7/004		G 1 1 B 7/004	C 5 D 0 4 4
20/10	3 2 1	20/10	3 2 1 Z 5 D 0 7 7
27/10		27/10	A 5 D 0 9 0

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願2002-106466 (P2002-106466)

(22) 出願日 平成14年4月9日 (2002. 4. 9)

(71) 出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(72) 発明者 菰田 英和

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ
ャープ株式会社内

(72) 発明者 川口 将順

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ
ャープ株式会社内

(74) 代理人 100112335

弁理士 藤本 英介

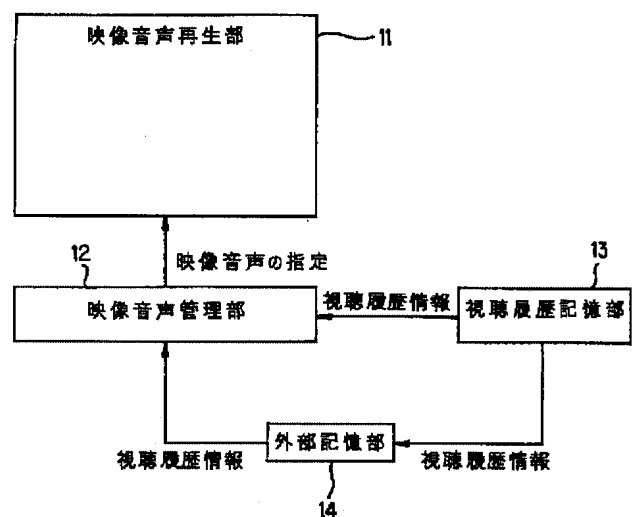
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 映像音声再生装置

(57) 【要約】

【課題】 現在コンテンツを再生している機器以外の機器であっても、同一番組や同一コンテンツの続きを自動的に再生可能とする。

【解決手段】 コンテンツの視聴履歴情報を記憶するための視聴履歴記憶手段を備える。視聴履歴記憶手段は、当該映像音声再生装置（例えば、PDA、ハードディスクレコーダ、DVDレコーダ、DVDプレイヤー、CDプレイヤー）に対して着脱可能な外部記憶手段（例えば、メモリカード等の外部記憶部14）からなる。視聴履歴記憶手段に記憶された視聴履歴情報を読み出して、コンテンツの続きを自動的に再生する。この場合、コンテンツの続きを、自動的に再生するか、あるいは確認後再生するかを任意に選択可能としてもよい。



(2)

1

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 受信したコンテンツあるいは記憶媒体に記憶されたコンテンツを再生するための映像音声再生装置において、
前記コンテンツの視聴履歴情報を記憶するための視聴履歴記憶手段を備えたことを特徴とする映像音声再生装置。

【請求項 2】 前記視聴履歴記憶手段は、当該映像音声再生装置に対して着脱可能な外部記憶手段からなることを特徴とする請求項 1 記載の映像音声再生装置。

【請求項 3】 前記視聴履歴記憶手段に記憶された視聴履歴情報を読み出して、前記コンテンツの続きを自動的に再生するための自動再生手段を備えたことを特徴とする請求項 1 または 2 記載の映像音声再生装置。

【請求項 4】 前記自動再生手段は、前記コンテンツの続きを、自動的に再生するか、あるいは確認後再生するかを任意に選択可能としたことを特徴とする請求項 3 記載の映像音声再生装置。

【請求項 5】 前記視聴履歴情報を転送するための情報転送手段を備えたことを特徴とする請求項 1～4 のうちのいずれか 1 項記載の映像音声再生装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、デジタル放送受信機、ハードディスクレコーダ、DVDレコーダ、DVDプレーヤ、CDプレーヤ等のように、受信したコンテンツあるいは記憶媒体に記憶されたコンテンツを再生するための映像音声再生装置に関する。

【0002】

【従来の技術】コンテンツの再生に際して、視聴者の嗜好情報を収集し、この嗜好情報を別機器で利用可能としたコンテンツ再生／受信装置が、特開 2000-269840 号公報に開示されている。このコンテンツ再生／受信装置では、視聴者ごとに嗜好値を算出し、持ち運び可能な記憶媒体に記録したり、別機器に転送することにより、異なる場所、機器においても、視聴者の嗜好情報を利用可能としている。

【0003】また、携帯端末電話機を利用した TV 番組予約システムが、特開 2001-103406 号公報に開示されている。この TV 番組予約システムでは、TV 放送受信機内に蓄積された視聴番組履歴情報をユーザの携帯端末電話機に転送することにより、ユーザが事前に番組を確認することができ、ユーザが希望する番組を簡単に予約可能としている。

【0004】また、放送番組の視聴を途中で中断した際に、自動的に視聴を中断した箇所から視聴を続けるための技術が、特開平 5-122674 号公報、特開平 11-205771 号公報に開示されている。

【0005】特開平 5-122674 号公報に記載された技術では、CATV システムにおいて、CATV セン

2

タより、同一の放送プログラムを異なるチャンネルで異なる時間帯に放送し、この際、放送プログラムに同一放送プログラムを放映しているチャンネルを結合するリンクデータと各チャンネル毎の放送開始時刻を示す開始時刻データを重畳して放送する。これに伴い、CATV 端末では、放送プログラム中断時に、重畳して放送される開始時間に基づいて、視聴した時間を中断経過時間として計算し、これを CATV 端末のメモリに保存する。そして、CATV 端末で視聴を再開する際に、保存したリンクデータと中断経過時間を利用して、CPU において自動的に中断時間に近い放送プログラムを選択し選局する。これにより、視聴を中断した放送プログラムの続きを自動的に視聴可能としている。

【0006】特開平 11-205771 号公報に記載された技術では、デジタル放送において放送番組に同期して伝送されるアプリケーションプログラムのうち、ゲーム等のような放送時間内に終了しない可能性のあるアプリケーションのために、番組を視聴している間の操作過程をデジタル放送受信機上の EEPROM に保存しておく。そして、同じ放送番組（アプリケーション）を視聴した際、EEPROM に保存した操作過程を読み込むことにより、アプリケーションの続きを実行することができるとしている。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】上述した従来の技術では、機器内部の記憶装置に再生情報を保存していた。例えば、放送受信機の電源をオフとし、再度、電源をオンとした場合に、先に視聴していたチャンネルと同一のチャンネルが自動的に選局されるようになっていた。この場合、受信機は、電源オフ時のチャンネル番号のみを記憶している。

【0008】また、特開平 5-122674 号公報に記載された技術では、CATV 端末のメモリに視聴を中断した際の経過時間を記録するため、同一の CATV 端末以外の機器では、視聴を中断した番組の続きを視聴することができない。また、特開平 11-205771 号公報に記載された技術についても、同様のことが言える。このように、従来の映像音声再生装置では、他の映像音声再生装置で視聴していたコンテンツの続きを自動的に受信／再生することは不可能であった。

【0009】本発明は、上述した事情に鑑み提案されたもので、現在コンテンツを再生している機器以外の機器であっても、同一番組や同一コンテンツの続きを自動的に再生可能な映像音声再生装置を提供することを目的とする。

【0010】具体的には、屋外で携帯機器を用いて受信／再生していた番組やコンテンツを、屋内の他の機器を用いて、自動的にその続きを受信／再生することを可能とするものである。

【0011】

10

20

30

40

50

(3)

3

【課題を解決するための手段】本発明は、受信したコンテンツあるいは記憶媒体に記憶されたコンテンツを再生するための映像音声再生装置において、前記コンテンツの視聴履歴情報を記憶するための視聴履歴記憶手段を備えたことを特徴とするものである。

【0012】また、本発明に係る映像音声再生装置は、前記視聴履歴記憶手段が、当該映像音声再生装置に対して着脱可能な外部記憶手段殻なることを特徴とする。

【0013】また、本発明に係る映像音声再生装置は、前記視聴履歴記憶手段に記憶された視聴履歴情報を読み出して、前記コンテンツの続きを自動的に再生するための自動再生手段を備えたことを特徴とする。ここで、前記自動再生手段は、前記コンテンツの続きを、自動的に再生するか、あるいは確認後再生するかを任意に選択可能とする。

【0014】さらに、本発明に係る映像音声再生装置は、前記視聴履歴情報を転送するための情報転送手段を備えたことを特徴とする。

【0015】

【発明の実施の形態】以下、図面に基づいて、本発明に係る映像音声再生装置の実施形態を説明する。図1は、本発明の実施形態に係る映像音声再生装置の構成を示すブロック図である。本発明の実施形態に係る映像音声再生装置は、図1に示すように、映像音声コンテンツを再生するための映像音声再生部11、再生する映像音声コンテンツの指定を行なうための映像音声管理部12、再生した映像音声コンテンツの視聴履歴情報を記録するための視聴履歴記憶部13、および外部記憶部14を備えている。

【0016】次に、図2および図3を用いて、本実施形態に係る映像音声再生装置における制御手順を説明する。本実施形態に係る映像音声再生装置は、当該映像音声再生装置に着脱可能な記憶媒体（図1に示す外部記憶部14）を備えており、この記憶媒体に番組の視聴履歴情報を記憶し、他の複数の映像音声再生装置に対して記憶媒体を装着することにより、コンテンツを視聴可能としたものである。

【0017】例えば、ユーザが任意の機器でコンテンツを視聴し、このコンテンツの終了前に、同コンテンツを他の機器で視聴しようと考えたとする。この場合に、ユーザは、現在までの視聴履歴情報が記録された記録媒体を、現在視聴に使用している機器から、引き続き視聴を望む機器へと移動させることにより、視聴コンテンツの続きを視聴することが可能となる。

【0018】すなわち、図2に示すように、視聴を中断する際に、再生中のメディアを確認し（S21）、そのメディアに対応した視聴履歴情報を記録媒体に記録する（S22）。ここでは、映像音声管理部12による視聴履歴情報を、視聴履歴記憶部13、および外部記憶部14に保存している。そして、図3に示すように、移動先

4

の機器において、再生を行うメディアを確認し（S31）、記録媒体から視聴履歴情報を読み出し（S32）、視聴履歴情報が記録されているか否か、すなわち視聴履歴情報が一致して同一のコンテンツが視聴可能な状態か否かを判断する（S33）。

【0019】ここで、視聴番組に関する情報が記録されていれば、当該機器において同一のコンテンツを視聴可能と判断して、同一のコンテンツの中断位置から再生を行なう（S34）。一方、記録媒体内に同一のコンテンツに関する視聴履歴情報が見つからなければ、現在のコンテンツの先頭から再生を行なう（S35）。この場合、映像音声管理部12は、視聴履歴記憶部13、および外部記憶部14から視聴履歴情報を読み出し、映像音声再生部11によりコンテンツを再生する。

【0020】次に、本発明に係る映像音声再生装置に関し、さらに具体的な実施形態を説明する。図4は、PDA（Personal Digital Assistants）を用いてデジタル放送を視聴し、デジタル放送を記録可能なHDD（Hard Disk Drive）記録再生装置により、その続きを自動再生する場合の模式図である。

【0021】図4に示すように、PDA42における視聴履歴情報は、PDA42およびHDD記録再生装置41で使用可能なメモリカード43に保存され、HDD記録再生装置41へ引き継ぐことができる。この際、番組を一意に決定付けるための情報として、デジタル放送の番組情報からNetwork ID、Original Network ID、Service ID、Event IDが一致する番組を検索する。

【0022】番組の進行状況を記録するための情報として、番組の開始時間、終了時間、視聴開始時間、視聴終了時間といった視聴履歴情報の保存が考えられる。視聴履歴情報の保存の例としては、図5のような形式となる。

【0023】PDAでの視聴からHDD記録再生装置での視聴に移行する場合、PDAの視聴履歴情報が記録されたメモリカードをHDD記録再生装置に挿入することで、現在までの視聴履歴情報をHDD記録再生装置へ引き継ぐことができる。また、メモリカードを用いずに、PDAとHDD記録再生装置の両機器間において、無線通信によるデータ転送を行ってもよい。

【0024】HDD記録再生装置は、PDAから引き継いだ視聴履歴情報のうちデジタル放送に関する情報と、HDD内に記録している番組とを比較し、Network ID、Original Network ID、Service ID、Event IDが一致する番組を検索する。検索の結果、同一番組が見つからなかった場合には、番組の自動再生は行なわれない。また、同一番組が見つかり、その番組を視聴途中であった場合（番組視聴終了時間が番組終了時間より前であった場合）に

(4)

5

は、その時間から番組の再生を自動的に開始する。この際、ユーザが視聴していた時間まで番組を進ませるために、HDD記録再生装置におけるデジタル放送番組の番組開始時間と、番組記録時に同時に記録された時刻データ（再生時の時刻ではない）を用いて頭出しを行なう。

【0025】具体的には、図5に示すように、ユーザが2001年1月2日12時34分56秒から2001年1月2日13時34分56秒までの放送番組を、PDAで視聴していたとする。このとき、HDD記録再生装置では、同番組を時刻とともに記録している。

【0026】ユーザは、PDAにおける視聴を、2001年1月2日13時04分56秒でやめた。そして、翌日（2001年1月3日13時00分00秒）、その続きを視聴するために、視聴履歴情報をPDAからHDD記録再生装置へ送る。すると、HDD記録再生装置は同一番組を検索し、ユーザが視聴終了した時刻（2001年1月2日13時04分56秒）と、番組と同時に記録された時刻を比較し、自動的に、同一時刻を頭出して再生を開始する。これにより、ユーザは、複数機器におけるシームレスな視聴が可能となる。ここで、視聴履歴情報による同一番組の再生において、例えばメニュー設定等により、自動的に続きの再生を行なうか、あるいは、

続きの再生が可能なことを画面表示で示し、再生の実行をユーザから指示させることが可能である。

【0027】次に、携帯型のDVDプレイヤーでDVDコンテンツを視聴し、他の据置型のDVDプレイヤーで、その続きを自動再生する場合を考える。DVDプレイヤーにおける視聴履歴情報は、各DVD機器に共通のメモリカードに保存することにより、他のDVD機器へと引き継ぐことができる。この際、例えば、DVDタイトルに固有のボリュームIDとチャプター開始からの視聴時間とを保存情報とすることが考えられる。

【0028】視聴中のDVDを他のDVD機器で視聴する場合には、DVDメディアとともに、現在までの視聴履歴情報が記録されたメモリカードを、引き続き視聴を希望するDVD機器へ挿入することで、現在までの視聴履歴情報を引き継ぐ。情報を引き継いだDVD機器は、DVDタイトルのIDと視聴履歴情報に記録されたIDとを比較し、DVDタイトルが一致しなければタイトルの先頭から再生を行なう。また、DVDタイトルのIDが一致した場合には、該当チャプターの続きから自動的

6

に再生する。これにより、ユーザは、複数機器におけるシームレスな視聴が可能となる。

【0029】

【発明の効果】本発明に係る映像音声再生装置によれば、デジタル放送やDVD/CDなどの視聴履歴情報をメモリカード等の外部記憶手段に保存し、あるいは転送することにより、複数の機器を用いて、同一番組や同一コンテンツの続きを自動的に視聴することが可能となる。ところで、従来の技術では、視聴を中断した際の情報を、放送受信端末上のメモリに保存しているため、視聴に使用していた放送受信端末のみでしか中断した番組の続きを見ることができない。これに対して、本発明に係る映像音声再生装置では、視聴情報を外部記憶手段に保存しているため、視聴に使用していない他の受信端末上で視聴を中断した番組の続きを見ることが可能となる。

【0030】さらに、本発明に係る映像音声再生装置によれば、視聴を中断した番組を見るための機器は、放送受信端末に限られず、ハードディスクレコーダ、DVDレコーダ、DVDプレイヤー、CDプレイヤー等のようにAV機器全般を対象とすることが可能である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施形態に係る映像音声再生装置の構成を示すブロック図である。

【図2】本発明の実施形態に係る映像音声再生装置における制御手順を示すフローチャートである。

【図3】本発明の実施形態に係る映像音声再生装置における制御手順を示すフローチャートである。

【図4】本発明に係る映像音声再生装置をさらに具体的に示す模式図である。

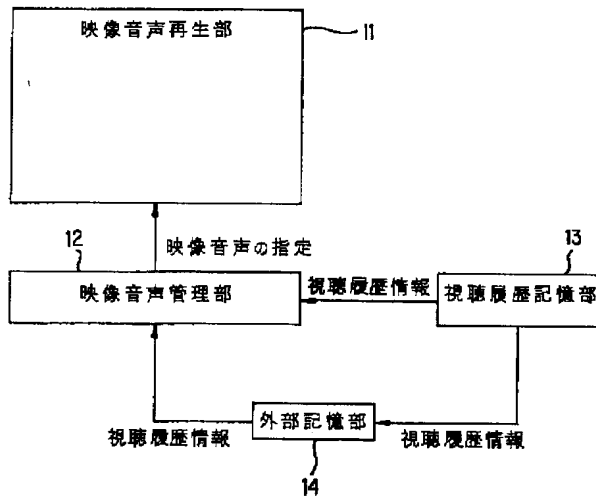
【図5】本発明に係る映像音声再生装置における視聴履歴情報の一例を示す説明図である。

【符号の説明】

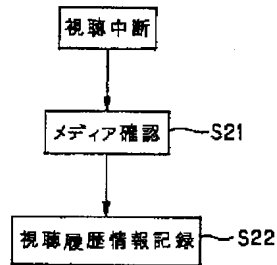
- 11 映像音声再生部
- 12 映像音声管理部
- 13 視聴履歴記憶部
- 14 外部記憶部
- 41 HDD記録再生装置
- 42 PDA
- 43 メモリカード

(5)

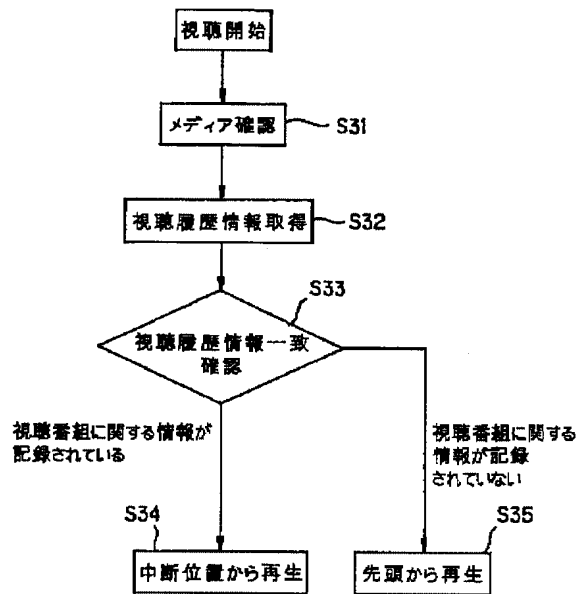
【図 1】



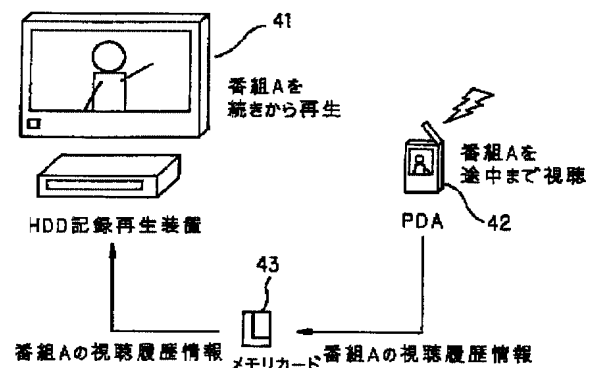
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

デジタル放送用視聴履歴情報テーブル	
NetworkID	
OriginalNetworkID	
ServiceID	
EventID	
番組開始時間	
番組終了時間	
視聴開始時間	
視聴終了時間	

視聴履歴情報の保存形式例

デジタル放送用視聴履歴情報テーブル	
NetworkID	0x0004
OriginalNetworkID	0x0004
ServiceID	181
EventID	0x3641
番組開始時間	2001年1月2日12時34分56秒
番組終了時間	2001年1月2日13時34分56秒
視聴開始時間	2001年1月2日12時44分56秒
視聴終了時間	2001年1月2日13時04分56秒

視聴履歴情報の具体的な例

(6)

フロントページの続き

(72) 発明者 中泉 光広
大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ
ャープ株式会社内

F ターム (参考) 5C052 AA17 AB03 CC06 DD04 DD06
GA03 GA04 GE08
5D044 AB05 BC01 BC02 CC04 FG23
5D077 AA22 AA23 BA19 BB16 CA02
5D090 AA01 BB02 BB03 BB04 CC04
CC16 DD03 FF26